

2024JR 総連春闘

第2回交渉

2024年2月26日に中央本部は「24春闘第2回交渉」を行いました。

組合要求の根拠

・2023年の消費者物価指数は平均3.2%に上昇。23春闘において平均1000円(0.35%)のベースアップと昇給金額表に基づく昇給に合わせて、1.93%の賃上げに留まっており、組合員は毎月1.27%(平均3810円)の實質賃金低下し、生活実態は厳しくなっている。生活にゆとりがなければ、仕事に対するモチベーションは上がらない!

・2023年度の期末手当は合計3.25カ月であり、2022年度と比べれば0.09カ月低くなっている。業績を理由に低額回答を示したが、私たちにとって生活給であり、物価上昇分を期末手当で補填して生活している!

・会社は今年度見通しとして、経常利益単体△69億円、連結△56億円とし、3期連続の赤字決算に危機感を示すが、私たちは「新賃金の申し入れ」を行っており、次年度はダイ改や営業施策が実を結び、黒字と転換するのであれば「原資がない」というのは誤魔化しだ!

・2024年問題が迫り、鉄道貨物輸送に追い風が吹いているが、要員不足ではその期待に応えることはできない。特に運転士不足は喫緊の課題である。

・離職率は、昨年度1.94%で今年度は2%超えということで会社も危機感を示し、離職防止対策を様々してきたと言うが、我々にとっては不十分である。職場の声に耳を傾け、職場の声に沿った対策をするべき!

・離職防止対策として、「エンゲージメントを高めていくこと」と言うが、認識がズレている! 私たちは、生きていくための生活費を稼ぐために働いているのが現実であり、エンゲージメントは二の次で、認識のズレを正さなくては、対策もズレてしまう!

・青年部員の将来展望を見だすためにも、賃上げは待たなし! 会社も「生活給はベア」と言っており、青年部員の期待は大きい!

・青年部は昨年「率要素」が入ったことにより、100円という差をつけられた。青年部は「定額回答」を強く求めている! 次回第3回交渉の考え方では額で示されるためにも、社内議論を!

会社の回答

- ・会社の立ち位置として、収入が上がっていない。物価高により賃下げ状態ということとは認識している。
- ・4期連続の赤字は許されないことから、貴組合の要求にどれだけ近づけられるかがポイントである。
- ・生活給はベースアップで、業績給は期末手当という考えに変わりはない。
- ・23春闘の「低額回答」という厳しい指摘については理解する。しかし、社員に寄り添ったからこそ、微々たるものだが有額回答してきている。これまでならばゼロ回答だった。気持ちには応えているつもりである。
- ・離職について昨年度より増えてきている。しかし、退職理由として賃金が全てということではなく、理由は様々である。
- ・採用については採用市場が激化してきており、採用の工夫をしていかななくてはいけない。他の鉄道会社などでも離職が止まらないと言っていた。鉄道業界の人氣が下がってきていると実感している。

以上のように賃下げの状態を認めつつも、「収入が悪い」を前面に押し出して、賃上げ抑止体制を示してきています。

率では不公平が拭えないことから、青年部として「額回答」を強く訴えかけていきます。これから闘争ゾーンに入りますが、賃上げの三要素における労使の力関係において団結力を示し、交渉を押し上げていくことが重要となってきます！

若手組合員の退職に歯止めをかけ、賃金や職場風土をより良くするためにも、地本青年部・支部青・分青は、職場の声に寄り添い、最先端にいる中央本部・本部青を支え共に闘っていきましょう！



檄メッセージを送り共に
闘っている仲間へ熱い
メッセージを送ろう！

今回は檄物資から檄メッセージに変更しています。

全国の各地本青年部に気持ちを送ろう！（個人に向けて記入も可）